

## 《中国学》

### 『淮南子』要略篇における学術史の叙述について

博士後期課程 一年 内山 直樹

『淮南子』要略篇の後半部分を占める先行八家の教説の紹介ならびに批評は、同時代の司馬談「六家要旨」とならんで、前漢初期という時点において学術の流別の分類を試みたものとして貴重である。両者を通して、我々は、『漢書』芸文志以前に学術がどのようなものとして思い描かれていたか、その一端を垣間見ることできる。ところが、『淮南子』要略篇における八家の選択には偏向があるように見受けられる。その取捨の基準についてはこれまでも取り沙汰されてきたが、一つの単純な事実が見落とされている。すなわち、取り上げられた教説がいずれも当時書物として見存していたことである。その背後には、学術の営まれる場を規定する条件を見出すそうとする志向が潜んでいる。それは時代性を強く帯びた志向でもあったと思われる。

『淮南子』諸篇中の関連箇所を参照することによって如上の事実を確認するとともに、分類の基準を人物に置く『荀子』非十二子、天論、解蔽諸篇や『莊子』天下篇、教説の中心概念に求める司馬談「六家要旨」との比較を通して、その意義を考えたい。

### 西晋期の四言詩に関する一考察

——潘岳、陸機を中心として——

博士後期課程 一年 小嶋 明紀子

漢代から六朝期にかけての四言詩は、その作品数の多さにも拘らず、『詩経』の模倣という観点から従来低い評価を受け、研究対象として取り上げられることは少なかった。

近年、四言詩に関する研究は増加の傾向にあるが、個々の作品の内容と措辞とについては、更に検討の余地が残されていると考えられる。

今回の発表では、西晋期の四言詩のうち、古来修辭性の強い作家とされてきた潘岳・陸機の作品について、内容と措辞とを中心に考察する。具体的なアプローチの方法としては、

- ① 先行の作品（曹植・嵇康などの四言詩）との比較
  - ② 同時代の五言詩との比較
  - ③ 政治・学術の動向との関連についての考察
- を考えている。

### 小説『水滸伝』と元曲『燕青博魚』における 燕青像について

博士後期課程 二年 阿部 晋一郎

小説『水滸伝』に浪子燕青という人物が登場する。彼は武芸はも